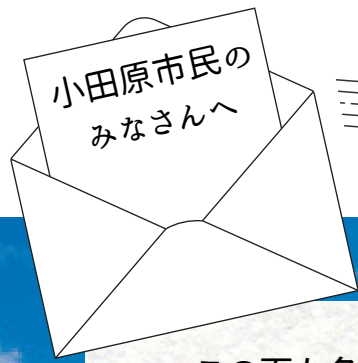




市長から市民への手紙

パワーズ
Powers!

復刊第2号
2026.9.20発行

おだわらを
拓く力

発行責任者：石川信雄
おだわらを拓く力
【加藤けんいち後援会】
小田原市城山1丁目14の25
城山・松本マンション201
TEL: 0465-20-6657
Mail: powers@mbn.nifty.com

この夏も各地で震災や豪雨など自然災害はとどまることなく、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。小田原も他人事ではなく、いざという時に力を発揮できる市役所であるように心を引き締めめています。

さて、この4月から第7次小田原市総合計画第1期実行計画「おだわら協創プラン」が始動。マニフェストを反映し30の施策分野に盛り込んだ数多くの事業が、動き出しています。

人口減少と少子高齢化、公共施設の老朽化、厳しい財政状況などの状況に変わりはありませんが、小田原の恵まれた自然環境や、歴史・文化・産業の蓄積、市民の活発な活動など、本市が誇る地域のポテンシャルの高さが内外から評価され、移住者の増加や関係人口の広がり、多方面との交流の活発化などに繋がっています。

そうした中にあっても何より大切なことは、市民の皆さんが安心して暮らせる地域社会の実現です。山積する課題をこのまちが進化する好機ととらえ、一つひとつ丁寧に向き合っていきます。市民の皆さん！将来都市像「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと・小田原～いのちを守り育てる地域自給圏」へ向かって、これからも共に歩んでいきましょう。

加藤 憲一



小田原市長
加藤けんいち

誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原へ

小田原の「自然」「人」「まち」「産業」「文化」の5つの力をまちづくりの資源とし、豊かさが循環する持続可能な地域社会「地域自給圏」を創造します。

市民のより良い暮らしのために この1年で進めてきたことをご報告します

市民の健康を守る

総合医療センターが開院

旧市立病院に替わる新たな病院「小田原市立総合医療センター」が5月に開院しました。最新の医療機器や快適な入院環境を備え、医師や看護師の拡充などにより、県西地域の高度急性期医療を支える基幹病院として、周辺地域の住民の命を支える拠点となります。



災害にも強く！持続可能な都市へ

電力地産地消プラットフォーム運用開始

住宅や事業所などの太陽光発電設備から余剰電力を集め、市内に供給する、全国初のしくみ「電力地産地消プラットフォーム」が4月に運用を開始。東日本大震災以降取り組んできた、電力自給を目指した取り組みの成果です。市域全体が発電所になるような、国内でも最先端のしくみです。



ネイチャーポジティブ認証を取得

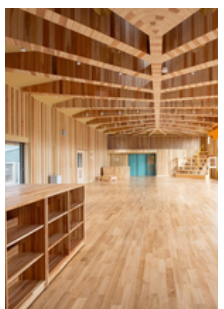
生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せるための「ネイチャーポジティブ宣言」を6月に行いました。この宣言は、おだわら環境志民ネットワークの皆さんと共同で実施。併せて、日本自然保護協会から全国6番目となるネイチャーポジティブ認証も取得しました。



子どもの育ちを保障する

たちばなこども園が開園

保育園と幼稚園が一体となった認定こども園として、「たちばなこども園」が4月に開園。小田原産木材をふんだんに用い、こどもたちの好奇心や創造力を育て遊びの中で逞しく育つように工夫された、小田原らしい育ちの場です。



給食費の小学校無償化実現

国が新たに創設した給食費負担軽減策と併せ、4月から小学校の給食費無償化を実現しました。中学校の給食費については、まず3分の1を減額し、引き続き、段階的無償化の拡大に向け、財源確保などを検討していきます。



体育館に空調設置

小中学校の体育館への空調設置を開始。今年度は、小学校2校(桜井、下中)、中学校2校(白山、鴨宮)へ。体育館は広域避難所としての役割も重要で、空調により住民の健康を守ることにまいります。2029年度までに残り全ての小中学校に導入を進めます。



おだわらNEXT!

これからやっていくことについて聞いてみました

おだわらNEXT!



これから小田原がどう変わるのか
市長に詳しく聞いてみました。



いよいよ通算4期目の任期も後半に入りました。初めて市長になった18年前と比べ、社会問題はより複雑になっています。そんな中でも、小田原市の進む方向は「市民自治」「地域自給圏」で変わりませんか？

はい、変わりません。地域で生産されたものや稼いだお金をなるべく地元で回し持続可能な地域を創ることが大切です。それには行政だけでなく市民の皆さんの主体的な取り組みが不可欠です。その基盤となるのは、市民の皆さんが力を発揮し続けられる環境です。

具体的なお話を伺いたいと思います。

まずは《環境再生プロジェクト》。近年目立ってきた荒れた自然に手を入れて、市民の憩いの場や活動の場として再生していきます。今年度は手初めに3地域で開始。国府津山中腹の山林、早川の柑橘園、小田原アリーナ横の用水路をフィールドに、地域住民や市民活動団体の皆さんが力を合わせ、空間整備が始まります。

また、地域全体で農業を支える《地域支援型農業》を推進します。農業は農産物の生産だけではなく、“環境保全”の役割も担っています。ただ、高齢化や後継者不足などで小田原でも農業者が急速に減少しています。私たちの食を支える農の確保は喫緊の課題です。幸い、新規就農希望者も増えつつあります。生産物を買えば支えたと共に、多様な担い手を育てることで地域の農を守ります。既に関係者による意見交換がスタートし、農水省からの協力も頂けそうです。

市の建物の老朽化や未整備の案件も気になります。近々では何が変わりますか？

大きな予算が必要なので、議会や市民の意見を聞きながら慎重に進めてきました。

ひとつは、《旧市民会館跡地とその周辺整備》です。現在は更地となり暫定的に広場利用を行っています。整備計画の見直しを進め、良質な緑地の空間として整備し、空地の少ない中心市街地での憩いの場としていきます。国道一号線にかかる歩道橋は、老朽化のため撤去に向けて協議が進んでいます。隣接地では、長期にわたる歴史まちづくりを見据え、大手門の位置確認のため年明け以降に発掘調査を行います。

もうひとつは、《水産市場整備構想》。建設から半世紀が経ち、老朽化に加え衛生面の課題も多い水産市場（小田原魚市場）の建て替えに向け、市場機能の向上と地域経済への貢献を視野に入れた再整備基本構想がまとまりつつあります。整備に向け水産庁とも連携しながら準備を進めます。

さて、市民の暮らしについてです。高齢者の交通手段については待ったなしです。

《AIオンデマンド交通》の実証事業を11月から、まずは市東部で開始します。AIオンデマンド交通とは、決まった時刻表やルートを持たず、利用者の予約に応じてAI（人工知能）がリアルタイムに最適な運行ルートや配車を計算する、新しい乗り合い型の公共交通サービスです。ワゴン車2台の運行で、駅や商業施設、医療機関などを結ぶルートを想定。近隣自治体での運用実績なども参考に、市内の広い地域での展開も視野に入れ検証していきます。対象地域にお住まいの皆様は、ぜひご活用ください。

今、市民の関心が高いのが、小中学校の再編問題です。8月には、地域で説明会を開催したとのことですが。

《小中学校再編》については、少子化の先の課題として予想されたことですが、いよいよ小田原にもその波は来たということでしょう。こどもの減少、施設の老朽化などに鑑み、5年ほどかけて行われた「新しい学校づくり」検討委員会から、市内の小学校25校と中学校11校を、12の小中一貫教育に再編するとの案が答申されました。

再編するにあたっては、学校が子どもの健やかな育ちと学びの場として確保され、多様化するニーズに応えることが出来ているかを最優先に考えることが大切です。また学校の存廃はその周辺地域への影響が極めて大きいことから、丁寧な議論と慎重な合意形成が必要です。市としての成案を年内に取りまとめ、年明け以降市民の皆さんと丁寧に議論しながら、今後の進め方を決定していく考えです。当面は、答申案の説明会などを開催していきます。

小中学校の再編は、子どもだけでなく、周辺に暮らす住民にとっても大きな影響がありそうです。地域コミュニティやまちづくりの観点からどう考えますか？

学区の再編成を機に地域コミュニティの再生にもいっそう注力していきたいと考えています。

現在は、《“地域担当職員”による地域支援》を行っています。26の自治会連合会エリアに対し、市の職員や地域の事務局などが分担して、まちづくり委員会の運営、人材の発掘、地域課題の把握と対応など、各地域コミュニティの活動を支援しています。

最新情報はコチラ／

市長の日記

市長の日記 小田原

ほかにもいろいろ すでに始まっています！

市政課題を解決する プロジェクト始動



4月からスタートした「おだわら協創プラン」第1期実行計画において、行政と市民、事業者が連携してまちづくりを進めるプロジェクトが動き出します。全20件ほどのプロジェクトが予定されており、いくつかは既に始動しています。ぜひ多くの皆さんにご参加頂き、市政課題の解決やまちづくりに共に取り組んで頂きたいです。

小田原駅西口広場の 整備構想策定へ



バス・タクシー・一般車と歩行者が狭い広場の中で交錯し、危険が多く、構造上の問題が指摘されている小田原駅西口広場。人や車両の動態調査、各交通事業者のヒアリングなどを行って問題点を確認してきました。より安全でスムーズな交通結節点となるよう整備構想の策定作業をスタートさせています。

見守りおむつ定期便 実施に向け調整中



県内初「見守りおむつ定期便」の実施に向け準備を進めています。専門の研修を受けた支援員が紙おむつを手渡ししながら育児に関する相談に応じるしくみです。現在は開始に向け、利用者となるママ・パパたちの意見を伺い、紙おむつの届け方や支援方法などについて詰めの作業を行っています。

学びの農園（エディブルスクールヤード） 育ちの充実へ



四季を通じて農作物を育てることで、体験しながら食と農について学ぶ農園を市内各所に整備。地域の大人たち、農の経験者、保護者も一緒に作業に取り組んで頂くことで、世代間交流にもなり、地域で子どもたちが育つ絆づくりにも繋がります。まずは市内3カ所にて開始し、今後各地へ拡げていきます。

※「エディブルスクールヤード」の名称は市議会からの意見を受け変更の予定

「信頼、誠実、そして希望」 加藤けんいちってこんな人

1964年小田原生まれの62歳。

小田原愛児園、芦子小学校、城山中学校、小田原高校、京都大学法学部出身。経営コンサルティング会社、民間教育団体事務局、商業ビル企画管理など経験。

2008～2020年3期12年小田原市長を務める。4つの大学等で講師。ワインぶどう栽培にも挑戦。2024年再び小田原市長に就任し通算4期目。

＜趣味＞

山歩き、小旅行

＜特技＞

餅つき、野良仕事、カラオケ（アリス・陽水・サザン）

＜好きな歴史上の人物＞

上杉鷹山、吉田松陰、アテルイ

妻・長女・長男の4人家族

市民の声をカトケンとつなぎ
これからの小田原をPOWER UP!

おだわら
拓く力



加藤けんいちOfficial Site
ボランティア/寄付/
フォーラムやおはなし会
への参加/
カトケンを応援！
ぜひご参加ください

フォローして
ください

